

かごしま禅の会について

芝田 義峰

(熊本支部)

熊本支部地区静坐会の一つでありました福岡県筑紫野静坐会を 鎮西支部の福岡静坐会（現福岡禅会）へバトンタッチした後、熊本支部は新天地鹿児島に静坐会をつくらうという動きが始まりました。支部役員会では、濱川道芳居士を担当役員に選出し、設立および運営を一任したのでした。平成20年4月のことでした。

道芳居士は毎週のように鹿児島へ行き、静坐会の会場探しを始めました。不慣れな土地でもありましたが、約2カ月かけて市民文化ホールを見つけました。5階にあります20畳の和室からの桜島の眺めは、絶景でございました。公共施設を借りる場合、いろいろな制約があります。私たちは東洋の伝統文化「禅」の研究グループであり、会員が集まって研修会を開くということで許可がありました。早速ポスターを市内の掲示板に張り、南日本新聞に開催日時等の掲載を依頼しました。申し込み制としましたところ、十数本の電話がありました。鹿児島県民の文化度の高さに驚きました。

月に一度の例会は原則第3日曜の午後2時から4時までとし、静坐のほかに『一行物 禅語の茶掛ちゃがけ』の輪読も始めました。ポスターを張る場所の抽選が月曜の午前8時半から行われるために、朝早くから出かけておりました。高速道路を利用して2時間半、新幹線を利用して1時間半、鹿児島は決して近くはありませんでした。

平成20年6月1日、第1回かごしま市民坐禅講座が始まりました。十数名の参加者を得て順調な滑り出しでした。しかし、ポスターの掲示については、費用対効果比を考えて中止しました。また会場も、よ

り交通の便の良い市内中心部へと移しました。

濱川法眼居士が帰郷し、鹿児島から熊本道場へ通って来ておりました。鹿児島の大きな核となる予定でしたが、開業（鍼灸院）と結婚という大きな人生の節目が一度に二つ重なり、ついに「3年間休ませてください。」ということになりました。誠実な彼は、当会の事務局を引き受けてくれています。一日も早い復帰を願っております。

平成21年10月には、妙青庵清島俊峰老師にお願いして講演会を開きました。40名ほどの人に来ていただきました。

最初は「人間禅」色は出さないようにしておりましたが、だんだんと会員の皆様との良い関係が出来まして平成21年4月からは「かごしま禅の会」と名称を変え会則も作り、会長に道芳居士を選出し、年会費3,600円などが決まりました。同時に人間禅を少しずつ出し、毎月例会での数息観の実修と同時に参禅体験会のことなど話し始めました。

時を同じくして参禅体験会（修禅会）ができる会場探しが始まりました。お寺さんを探して朝5時半からの静坐に参加したりしておりましたが、いろいろと事情がありましてうまくいきません。費用のことも考えて公共施設を利用する方法はないだろうかとあちこち探しました。また、制約をクリアするため法話を「集団指導」、参禅は「個別



第一回鹿児島参禅会「こころ生き生き坐禅セミナー in 霧島」

指導」と表現しました。そんな中から平成23年2月に行われる体験会の会場を確保することができました。会場の「霧島自然ふれあいセンター」で行われる研修は通常どのように行われるのかを体験しようということになり、センターの自主事業「秋の霧島と星座を観察する会」（1泊2日）に妙青庵清島俊峰老師以下10人ほどの支部員が参加しました。食事の方法、入浴、寝具の取り扱いなど勉強しました。

数回にわたるセンターとの折衝のなかで、少しでも良い印象を持ってもらわなくてはならないので、^{さむ}作務（注1）を強調し大浴場やトイレの清掃などをやらせていただくことになりました。

とにかく今は、間近に迫った「こころ生き生き坐禅セミナーin霧島」（2月18日～20日午前）と講演会（2月20日午後。会場：鹿児島県民交流センター）に向けて日課を検討したり大わらわであります。この12月の広島禅会に参加させていただき、ホテルでの参禅会を体験したことは大変勉強になりました。

編集部注

「こころ生き生き坐禅セミナーin霧島」には、一般13名（うち葆光庵春潭老師に参禅した人11名）会員24名、合計37名の参加があった。鹿児島市で行われた講演会（講師：笠倉玉溪禅子、大休庵諦観老居士）には、会員を含め約60名の参加があった。

（注1）作務：坐禅による静中の工夫を動態に移して、動作中にも工夫を続けて三昧力（集中力）を養う修行をいう。

著者プロフィール



芝田義峰（本名／容孝）
昭和14年、東京生まれ。熊本大学法科卒。元特別医療法人くまもと心療病院事務長。昭和33年、人間禅立田英山老師に入門。現在、人間禅布教師。庵号／三光庵。